

東日本大震災被災地に心を寄せて！ —平成24年敬念寺研修旅行で現地へ—



ゆりあげ

津波により犠牲となった名取市関上中学校生徒の慰霊碑を訪ねました (24.11.24)



発行所
岡谷市郷田一丁目6番3号
TEL(0266)22-2524
金松山 敬念寺
発行
敬念寺門信徒会
編集
会報組織委員会

朝7時はみ仏さまや
彼(か)の人との
出会(であ)いの時間

小僧の目

▼一月も終わる三十一日の朝、世話人のAさんの奥さんが唐突に「お寺を止めさせて下さい」と訪ねてこられ、びつくりして応待しました。よく聞きますと、このいきさつは次の通りでした▼ご主人が病気で余命いくばくもないので、もし、葬儀になると娘婿が葬儀関係の職にある関係で、会社貢献のためホール葬をしたい。そうなると、お寺さんは出張？してもらえないかと思ひ、前述の申し出になつたのです▼日頃から「この世の縁の尽きるとき、如来の浄土に生まれる」と話し、お浄土を荘厳した本堂でお勤めするのが、より丁寧な葬儀であると考えていますが「事情があれば出向きますよ」と話すと、安心して帰られました▼それから二日後にお亡くなりになられ、無事、式を執り行いました▼昨年五月には、六十一才まで活躍していた女性の葬儀を東京で行いました▼不治の病と告知されてから仕事を辞め、自分の最期までのことを克明にノートに記録され、その中に葬儀は敬念寺住職に、その夜の宿泊のホテルまで指定された徹底ぶりでした▼遺族の皆さんは故人の遺言通り、親しかった方々を招きお見送りをされました▼現在、葬儀事情は多様化し自分らしい葬儀を考える傾向がありますが、長く病んでいる人の場合、死後のことまで頼めない状況にあるのも実情であります▼積立てなどしてホールで行うことが「故人の遺志」との申し出もありますが、葬儀は、お別れの悲しみの中にも、故人の為に、残された遺族(喪主)が生涯培った故人のお徳を讃え、報恩感謝の心で、浄土真宗(敬念寺)の方式で出すものです▼いずれにしても、自分がどのような状態になつても、人生の最後の日まで、今を精一杯生き切ることが大切で、後は、阿弥陀様にお任せすることだと思ひます。

釋 玄真

寺院行事

- 3月20日(水) 春の彼岸法要 前10:00
講師 結城道哉先生(愛知県)
- 7月13日(土) 第30回ファミリー参拝 後6:00
- 8月1日(木) 第34回早朝連続参拝 前5:30
- 8月4日(日) 新盆合同法要 前10:00
- 8月16日(金) 盂蘭盆法要 前10:00

定例法話会

- 3月20日(水) ◎春彼岸法要のため屋間のみです。
 - 4月20日(土) 講師 八幡徹信先生(岐阜県)
 - 5月20日(月) 講師 未定
 - 6月20日(木) 講師 増井浄見先生(兵庫県)
 - 7月20日(土) 講師 青木哲静先生(富山県)
- いずれも毎月20日 夜7:00からです。

4月～7月：本堂内陣改修工事（床などの黒漆塗り）が行われます！

— 工事等の内容 —

- ☆本堂内陣床・内陣余間境敷居・中外陣正面敷居の漆塗り（内陣前の間仕切り工事を施工）
 - ☆中尊前卓修復
 - ☆御本尊、阿弥陀如来絵像掛け軸新調
- 【4～7月が漆塗りの適期】

本年二月開催された門信徒会常任委員会で、お寺から改修工事の計画の提案があり、これが了承されました。工事の概要は次のとおりですので、ご承知いただき、期間中は、間仕切り少し狭い本堂での法要などとなりますが、ご理解とご協力をお願いいたします。

皆様の篤い懇念を戴き耐震補強をはじめ境内・外の整備が整い、今後は門信徒の崇敬の中心「本堂」の内陣を主に、その荘厳に力を注ぐ「新たな始まり」の時期を迎え、ご住職の御恩報謝の念いとして費用を「拠出」され、実施するものです。

予告 第2回 敬念寺早朝公開講座

昨年、好評だった早朝公開講座を今年も開講します。今回は、深さ六千mの深海で海洋地質の研究に携わっている方をお招きして、不思議な深海の世界に誘い、併せて地震のメカニズムについてもお話いただく予定です。

- 期日：平成25年6月16日(日) 前7:00～8:00
- 会場：敬念寺本堂
- 講師：金松 敏也 先生 (理学博士)
東京大学理学部博士課程修了
独立行政法人海洋研究開発機構技術研究主幹
- 講題：深海の不思議と地震の温床 (仮題)



中外陣の点線部分に間仕切りを設置

合葬墓地の研究始まる！ — いよいよ岡谷でも —

「最近、少子化、核家族化、未婚など、家の跡取り（墓の継承者）がないなどの理由や亡くなった人の親族に継承する意思がなかったり、親族のいない、継承者本人がなくなるなど、家制度を前提にした墓地管理の継続が難しく、新しい社会問題となつてきている」ことが、新聞などで報道されました。

市内の寺院の何ヶ寺かが、こうしたお困りの方の為に「永代納骨観音大悲堂」「永代慰霊供養墓」などを用意されているそうです。

敬念寺でも同様な相談があり、昨年、内山霊園から境内や丸戸墓地にある、「俱会一処」の塔（納骨施設）への埋骨を希望され、ご家族・御親族の立会いの下、法要の後、納めさせていただきました。

ことが命に関わる重要な問題で、自分だけで判断することは大変難しいことです。しかし、よく考えると、お寺が存続する限り、永代大切にされていく、私たちのお寺、阿弥陀様の下にお預けになることは意味のあることです。

その他のことも含め、お困りやお悩みの方は、ご相談にのりますので、電話の後、お気軽にお寺においで下さい。



丸戸墓地の合祀墓「俱会一処」

2013 本山御堂演奏会へ 出演めざして練習中！

平成二十年七月八日に発足した「コールガンダー」は、いまや婦人部活動の中核となり、男性参加者も加えて教化伝道の一翼を担っています。翌年の十一月秋には本山の御堂演奏会を鑑賞。その荘厳さに魅了され、次はぜひ出演したいとの声が多く聞かれました。

月二回の練習を行い、今年はいよいよ、本山御影堂の演奏会（十一月二十三日～二十四日）への出演を計画しています。

課題曲「ごおんうれしや」「ほとけさまは」「やさしさにであつたら」などの曲を熱心に練習しています。
(宮下婦人部長 記)

「敬念寺次世代の会」 「敬真会」が発足しました！

ファミリー参拝や早朝連続参拝など、今日の敬念寺教化活動を生み出してきた「壮年部」が発展的刷新のため解散して、早や十六年が経過しました。この間、さまざまな模索がされてきましたが、このたび次世代の会「敬真会」が発足、活動を始めています。

教化活動の活性化や、会館・庫裡建設の推進力となつて、敬念寺が現在の姿になるまでの基盤づくりに、壮年部は大きな役割を果たしてきました。平成八年、会員の高齢化や若院がお寺に関わりやすいようにとの理由から発展的に解散し、今日に至っております。

昨年、住職が直接に若手門信徒などと呼びかけ第一回の会合をもつたところですがこのたび、二月十四日に第二回目を開催。会の名称を「敬真会」とし、浄土真宗のイロハについて住職から話を聞きました。

会合にはこれまで、十八人が参加しており、代表世話人には熊崎定男氏が、世話人には般若明弘氏、高橋清人氏が選ばれています。

第二回目の研修内容

◎蓮如上人御一代記聞書きんしよより

・仏法をあるじとし、

世間を客人とせよといへり



第2回「敬真会」の様子 (25.2.14)

・ 仏法は世間のひまを欠きて

聞くべし

◎資料プリントから

・ 苦しみの原因

・ 「出家ルート」と浄土真宗

◎敬念寺の組織について

◎仏参 「讃仏偈」

次回は六月十三日午後七時から。

貴方も参加してみませんか！



いつお会いしても、穏やかな笑顔で会釈をして下さる村石龍仙さんです。取材の日、凍結した路面を渡ろうとしたところ、サツと手を差し伸べて下さった。やさしいお人柄の方です。
龍仙さんは岐阜県瑞浪の高校を卒業されてすぐ、東京両国の国技館近くに住み、郵便局を始め様々な仕事につきながら、「書」の道を歩まれ、二十四歳で大学に進み、中国文化を勉強されました。

しょう しき
青 色
しょう こう
青 光
五十七回

書を極める

村石 龍仙 さん

岡谷市山手町

(6 ページに作品掲載)

書の大家である津金孝邦先生に師事し、昭和五十五年岡谷に移られ、丸山恵仙様の妹様である村石わか様のご養子に入られました。以来、恵仙様の教室のお手伝いをしながら、ご自身も書の道を極められ、昨年、三度目の日展入選を果たされました。

月に四千枚もの紙に書き、指にタコが出来たり、書く時は、歯に力を入れて、ギョツと食い縛るため、奥歯がすり減ってしまっているそうです。擦った墨は、その日の内に一気に書かないと、色が変わってしまう。とおっしゃいます。又、師弟関係のむずかしさを熱く語られました。

お酒を召し上がらないこともあり、「世渡りが不器用です」とおっしゃいますが、そこが龍仙さんの素敵なところだと感じました。

敬念寺との関わりは、お父様が亡くなってからお寺に足を運ぶようになったとおっしゃいます。お母様は常に経本を手にし、お経を誦よみんでおられるとのこと。

若い頃、先代のご住職様がお宅に見えられ、食事を御一緒にいただきました。とても楽しい時を過ごしたことを懐かしく思い出します。とやわらかな表情でお話しして下さいました。

(滝川 記)

最後の夜は水入らずで!

一分院がお役に立ちます!

人生において死と共に避けられない一つに、病や老いがあります。やむなく入院したり、施設に入所されている方やご家族の共通の願いは、早く良くなって家に帰りたいう、帰ってきてほしいという気持ちが大いと思います。

残念ながら万感思いを残して、そこで最期を迎えられた方は、是非一度は住み慣れた家に帰してあげ、お通夜は遺族、近親者で静かに勤めてあげたいものです。

物理的な問題(部屋が狭い、駐車場がない等)もありますが、余り費用をかけずに、ご自宅でそれ

なりに、お勤めできるものです。

しかし、どうしても不都合な場合は、〇〇ホールなどをすぐに考えるのではなく、鍵一つで「自分の家のように使える」「敬念寺分院」(平成十三年建設)の利用を考えてみてはいかがでしょうか?

多少の不便さはありますが、親しく手をかけてあげられます。

木造二階建てで、一階は礼拝施設を備えた二十畳のホール、二階は十六畳で各階とも簡単な台所を併設。泊まることもできます。

三〜四台の駐車は出来ませんが、台数が多い場合は近くの間下区民センターが利用できます。(お願いであります)また、寺の駐車場も利用できます。(徒歩五分位)

分院を利用して!

母との別れ

湊 H・K

一昨年の暮れの二十一日、九十才の母を亡くしました。

通夜や葬儀について何も知らない私でしたが、皆さんの協力ですべて「分院」で式を執り行いました。

鍵一つで施錠でき、お通夜の後は安心して姉と二人で母の横に添い寝をして、語り明かしました。

葬儀は会葬者が予定より多く少し窮屈でしたが、その分こじんまりと温かい雰囲気の中で、お浄土に見送ることが出来ました。

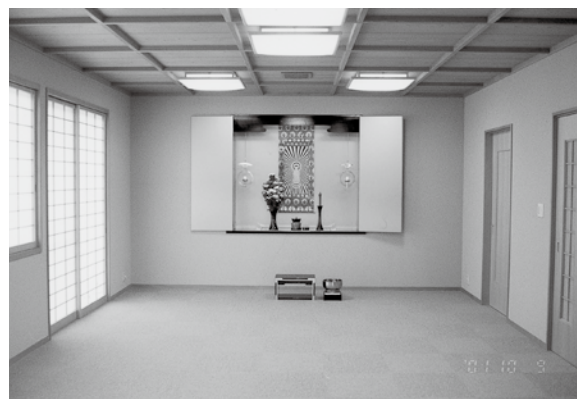
人に気がねなく

川岸 S・H

玄関まで、無理をしないと車が入らないことや、主人が長く病んでおり、家の片づけなど準備がないところでの逝去で困っていました。が、「分院」にお世話になることができ、大変有り難く思っております。

人に気がねなく、家庭と同じように使え、長男と姪の三人で夜は語り合い、用意されていた寝具でゆつくり寝ることも出来ました。

借用料も良心的で助かりました。



分院1階 20畳の部屋

敬念寺掲示板

墓地をお求めの方へ!

境内やお寺から至近距離にある丸戸墓地に、ご利用いただける墓地があります。希望の方はお申し出ください。また、ご親せきなどで、お知り合いの方など、ご紹介ください。

分骨(ご希望の方へ!)

最近、京都本山、大谷本廟、無量寿堂へ分骨の、お申し出を戴きました。かつて、お身内の方が納骨されたいきさつからでした。

今後、お寺の旅行などに納骨の機会を設けますので、ご希望の方はご相談ください。

平成二十四年 研修旅行

―東日本大震災復興地へ―

十一月二十四日～二十六日、東日本大震災の被災地と復興の現状に間近に触れるための研修旅行が実施されました。お二人から旅行記を投稿していただきました。

(関連写真を次頁に掲載)

震災復興地を訪ねて

岡谷市 滝川 育子

平成二十四年三月十一日東北において地震と大津波という大変な災害が起きた。「災害」と一言で片付けてしまえない悲惨な出来事であった。

私達は報道を通じてしか知る他になかったが、この度の研修旅行で被災地を訪ねることができた。

先ず、宮城県名取市閑上では被災した当時閑上中学校の生徒であった雄也君とお母様、雄也君のお友達が体験を話してくださいました。

「僕等のあの被災で頑張って逃げた様子を知ってほしい！」という熱い心が伝わる程熱心に語ってくれた。学校の時計の針がその時を示したままで、全てを物語っている。校舎の前には被災した生徒の慰霊碑があり、皆でお参りして閑上地区を後にした。

次に石巻市にある私達の同朋のお寺「称法寺」の被災の様子を訪ねた。津波が通り抜け、お寺の屋根と柱しか残っていない。参道を入ると親鸞様が汚れて立っていらつしやる。「ああ親鸞様は御無事だったんだ・・・」と思つたが違つていた。親鸞様は二百m流されてしまい、門徒の方々の手でここに立つことができたという。鐘楼は今も見つからない。茫然と立っていらつしやる御住職様の様子に私達は言葉を失つた。

「それを知るためには、その地に立たないとわからない」を実感しながら一日も早い復興を願わずにいられない旅であった。

被災地を巡つた後は、松島、仙台と楽しい旅を重ねつつ、穏やかな安らぎを感じ、今更ながら幸せを感じた研修旅行となった。



閑上「まちカフェ」にて

東日本大震災復興地の旅

岡谷市 小宮山良一

初日午後、津波で大きな被害をうけた名取市の現地向かう。忘れもしない我が家での地震体験、TVで見た大津波被害の現地を目前にして胸が痛んだ。

荒れ野原一面の市街地の中で、「語り部」の菊池さん親子と友人が紹介され、まず市街地が一望できる丘、「日和山」へ。丘の上で、地震前の賑やかな市街地の写真を見ながら説明がされた。「丘の上の神社も、避難した人達も、目の前の市街地もすっかり津波の犠牲になってしまった」と、まさかと、疑うほどであった。

次に「閑上中学校」へ向かう。正面玄関入口には慰霊碑があり、説明があった。震災当日午前に卒業式があり、午後は全校生徒休みながら生徒十四人の尊い命が犠牲になった。

一周忌に遺族会が名前を刻んだ慰霊碑を除幕し、「皆さんに触って頂くことにより、冷たい石の慰霊碑でなく、ぬくもりのある慰霊碑になって欲しい」とのご配慮だとのこと。早速皆さんで慰霊碑を温めた。又、慰霊碑の脇には友達の思いが記録されていました。

「あの日大勢の人達が津波から逃れるためこの閑上中学校を目指して走り出した。街の復興はとても大切なことです。でも大切なことは沢山の人の命が今はここにあることを忘れないでほしい。死んだら終わりですか?・・・」

この後閑上復興市場でお買いもの時間となり、皆さん次々と土産品を求めた。予想以上の体験ができた初日となり、当地の皆様のご多幸と早期の復興を祈念申し上げてホテルに向かった。

三日目は東日本大震災で最も大きな被害を被った石巻市の浄土真宗の「称法寺」をお見舞いの日に着いた途端、目に入ったのが屋根だけが残り壁がすっかり落ちたままの惨めなお寺でした。

入口に「親鸞聖人」の像だけが建てられ、この世の厳しさを救うべく荒野を見つめているようであった。寺院内部は津波に洗われたままで、全く無惨な姿であった。

隣接地の庫裡内に設けられた仮拝殿に参拝、お見舞いの気持ちをお返し、早期に再建が進むことを念じました。

今回の研修旅行を計画・実施され多くのご配慮を頂いた皆様にお礼を申し上げ旅行記とさせていただきます。

東日本大震災被災地の旅から



ゆりあげ
名取市関上中学校前にて



ゆりあげ ひよりやま
▲名取市関上地区白和山にて
(24.11.24)



2012年度 敬念寺・研修&親睦旅行「東日本大震災・復興地訪問の旅」
/仙台別院 (24.11.25)



石巻市「称法寺」本堂の被災状況 (24.11.26)

春の彼岸・行事案内

今年の春の彼岸の行事は下記のとおりです。
ご家庭で、お寺でよい彼岸の一週間をお過ごし下さい。

- ・3月17日(日) 彼岸の入り 朝 7:00
 - ・3月20日(水) 春の彼岸法要 朝 10:00
(夜7時から定例法話会はお休みです。)
- 講師 結城 道哉 先生〈愛知県〉
講題 「此岸から彼岸へ」

※終了後お茶の接待があります。



歌人塚本邦雄の歌より：揮毫 村石龍仙氏
(今号青色青光で村石氏を紹介)

トピックス
会館に「花の舞」書額
村石龍仙氏が寄贈!

編集後記

厳しい寒さと、例年にならない降雪で銀世界の日が多い今冬でした。県内豪雪地帯の皆様のご苦勞の一端を思い知ることもできました。寒い冬にあっても、日曜礼拝に多くの皆様が参拝されています。お勤めの最後に拝読させていただいている「浄土真宗の救いのよろこび」(一〇六号一頁の写真を参照)がすっかり定着しています。

今年も例年の教化活動が展開されますが、次世代の会など新たな動きも始まりました。

季節は移ろい、春彼岸の良い季節となりました。来る彼岸法要に多くの皆様のご参拝をお待ちしております。浄土真宗は「聞法の宗教」と言われています。真宗の門徒として、「世間のひまを欠いて」仏法を聞く日の多い一年でありたいものです。

(白田 記)

門信徒会年次総会

—4月27日(土) 午後6時より開催—

総会は地区等世話人の代議員制です。地区世話人を通じてご意見をお寄せ下さい。

日時：平成25年4月27日(土)
午後6時開催

場所：敬念寺本堂

議題

1. 平成24年度事業・会計報告
2. 平成25年度事業・予算案承認の件
3. その他